

(解答らん)

1

1 人体の
2 A 濁って
B たまたた

3 イ
4 それは
5 ア
6 エ

7 フレミング
8 リゾチーム

9 (記述題)

10 a 神話
b 期待
c 特定

d 生産

2

(7・10 完答 12 順不同・完答)

1 a 受話器
b 夜半
c 満足

2 イ
3 熱中
4 昔味
5 イ
6 エ

7 自分
8 イ
9 火事

10 a 消しゴム
b 落書き
11 ひさし

12 イ
ウ

1

9
ふとした偶然のできごと
とが、下地のあり人の
もとに、起こり、大発見
をもち、たすこと。

(同意可)

配点	
11021	各2点×7=14点
19	6点
その他	各4点×20=80点
100点	

- 1 [1] 傍線部を含む一文をチェックしよう。「この」という指示語に注目すべきであるし、「物質」に続いていく言葉であるということも見落としてはいけない。
- 2 A 「妙な」はここでは「変わったこと」を意味しているだろう。また、「発見」という言葉に注目してもよい。
B ②部は「どうやって」という問いかけになっているので、これの答えに当たるものを探せばよい。すなわち、まずは後続部を優先的にチェックすべきだろう。
- 3 書かれている前提部分から結論の部分を考える問いである。「人体が：強力な抗菌剤を備えているのであれば」とあるから、強力な抗菌剤が何をするかを考えると、当然細菌を殺すことである。するとどうなるかを考えて選択肢を選ぶことになる。
- 4 あまり意味のない話なのであれば、少なくともこの文章で取り上げる必要はないはずである。であるならば、筆者にどのような意図があるのか、と考え、直後の「この後で大きな意味を持つことになる」を参考にできれば上出来である。続く文が「二つのポイント」をおさえていることも確認して、ぬき出せばよいだろう。
- 5 「と述べたほど」と続くので、結果的にはその箇所を読めばよいということになる。比喩的な表現の意味はつねに気にしておこう。
- 6 段落の冒頭に「この時もそれが起こった。」とあるので、続く箇所が「それ」の具体的な内容であると想定して読めるとよい。「ブドウ球菌を培養しようとしていたシャーレのひとつに、どこからかアオカビの胞子が飛び込み、繁殖していたのだ。」を冷静に読めば、「ブドウ球菌に」「アオカビ（の胞子）が」であるとわかる。
- 7 直前にある下村博士のコメントを参考にしよう。「天は私という人間を使って、人類にGFPを与えたのではないか」とある。これを「この物質」すなわち「ペニシリン」の発見に置き換えれば、⑦の中身は自ずと「フレミング」で決まるだろう。
- 8 似たような実験の説明が続いているので、注意して読まないと混同してしまったかもしれないが、前半は「リゾチーム」の発見、後半は「ペニシリン」の発見であった。通読の際にも、「リゾチーム発見から6年後の」などと時間が経っていることをあらわす表現には注意を払っておきたい。
- 9 「セレンディピティ」という言葉は聞き慣れないものであっただろう。ここでは知識を問うているのではなく、設問の指示にもあるように、「ペニシリン発見」のエピソードに見られる特徴をまとめていけば答えになるのである。この文章を通して強調されていた「偶然／幸運」といった内容と結びつけられればよいだろう。さらに、直接的なきっかけは偶然であっても、フレミング以外では気づかなかったとあることも盛り込めると解答としては万全なものになるだろう。
- 10 a 「神」は「しめすへん」である。ころもへんと混同しないよう気をつけよう。b 「期待」は言葉としては平易だろう。「ギ」を「機」としたり、「タイ」を「対」としたりしないように気をつけてほしい。c 「特定」は「ある決まった種類の」という意味で用いられている。d 「生産」は同音異義語に注意しよう。
- 2 [2] 1 a 「受話器」は容易であろうが、「器」を「機」としないこと。b 「夜半」は「夜更け」の意味。c 「満足」は「満」の字形に気を付けること。
- 2 司書であっても郵便配達であっても、仕事をまじめにやるなら、共通にどのようなことが言えるか。直前を見て「とても勤務中に読書にふけるなんてわけにはいかず」という部分のことだと判断すればよいだろう。
- 3 「他のことに気づかない」を「夢中」や「熱中」と答えさせる問題は多い。本文中では「没頭」という言い方もされていた。パターンとしてもおさえておこう。
- 4 「わたしのからだのなかに、：眠っていたみたい」とあることから、直前の「昔味わたった」との対応をみる。「火花」は「興奮」と関連した表現になっている。
- 5 「西の空は夕焼けです」や「夕食の支度まではまだ時間があります」から判断しよう。
- 6 直前の段落にある「目を離せないでいます」などの表現からは、あまりに意外で信じられない様子が読み取れる。ウは「本の続きばかり」となっていることに注意して候補から外すこと。
- 7 傍線部は指示語を含む表現になっているので、「あの」の内容をはっきりさせればよいだろう。つまり、「どんなうち」だったかと考えて探していくのである。
- 8 不適当なものを問うていることに注意する。「もしかけたなら、誰が出るだろうか」という想像をしているところから、見ず知らずの誰かに電話しようとしているのではないことは明らかであろう。
- 9 「あそこ」が問7と同じ「うち」をさしていることが分かれば、その場所がない理由ははっきりしているだろう。
- 10 続く一文が「くのです」とあることから、aはすぐに見つけてほしい。あとは何を消すのかと考えて、電話番号を発見したときの場面を精査しなおしてみてほしい。字数の条件にあてはまるのは「落書き」である。
- 11 ゆう子さんが過去を思い出したのは、本に書かれていた電話番号を見たからである。では、その番号を見たのはと考えると、休みになったからである。休みになったのはなぜかと考えると、手すりでの事故が発端なのであった。そこでその部分を読み直してみると、仕事がお昼でひけてしまったので、「ひさしぶりにうちで何か本を読もう」と考えたことが書かれている。
- 12 過去のことを思い出したが、消しゴムでその電話番号を消しているように、何らかの気持ちの整理はついたのであろう。そのことと手すりが修復されることがリンクしていると読むことができる。すると、プラスの心情を答えるのがよいということになるだろう。